

砂丘

発行：独立行政法人 国立病院機構

鳥取医療センター

発行責任者：井上 一彦

理念

1. 人類愛に基づく、質の高い医療を提供する。
2. 患者本位の医療体制を確立し、十分な説明と同意の下に、自由意志を尊重し、人としての尊厳を守る。
3. あらゆる情報の公開に努め、医療人としての自己研鑽に努める。

トピックス

1. 院長就任のご挨拶
2. 昇任・着任挨拶
3. 骨密度測定 共同利用開始
4. シリーズロボット病棟 No.5
5. Comedical topics

院長就任のご挨拶

平成30年4月1日に病院長を拝命いたしました井上一彦と申します。就任に際してご挨拶を申し上げます。

当院は鳥取市岩倉にあった精神科の旧鳥取病院と三津の旧西鳥取病院が平成17年7月に統合してこの三津の地で独立行政法人国立病院機構鳥取医療センターとして発足し、はや13年が経過しました。初代院長の柏木徹先生、2代目の下田光太郎先生の後をつぎ私で3代目の院長になります。

歴代院長先生の時代に、統合以前から各々の病院がおこなっていた精神科医療、重症心身障がい児者医療、発達外来医療、神経難病医療、結核医療、脳卒中リハビリ医療、一般内科医療を充実させつつ、あらたな医療環境を開拓すべくハード面も含めて整備されてきました。例えば、平成18年8月に結核病床の陰圧ユニット化、平成22年に医療観察法病棟を8床のユニット病床で運用開始し平成25年に17床のハーフサイズ病床に増床開棟、平成23年に新機能訓練棟開棟、平成24年には重心病棟新築開棟と回復期リハビリテーション病棟を開設しています。また、きたるべき高齢化時代、認知症時代にそなえて平成26年10月からもの忘れ診療を開始し、平成28年7月には認知症病棟を開設しました。

当院の医療目標の柱としては先に述べましたセーフティーネット系医療を着実におこない、同時に信頼される良質で安全な地域医療を提供すること、地域病院や診療所、介護福祉施設、障がい児者施設、行政などと連携協力して地域医療に貢献すること、さらに臨床研究を推進して情報発信することが大切だと考えています。また、医療はひとりの患者さんを単に臓器別で診るのではなく全人的な観点から診ることが必要ですので、各診療科医師、コメディカルなどあらゆるメディカルスタッフを動員したチーム医療の充実発展にも努力していきたいと考えています。院内、院外の皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



鳥取医療センター 院長
井上 一彦

○昇任挨拶・着任挨拶○

統括診療部長 高橋 浩 士

4月1日より統括診療部長を拝命いたしました。よろしくお願いいたします。

早いもので鳥取医療センターに来て8年になります。東京在住歴30年、ボストン2年の私の鳥取に対する想いは、生まれも育ちも東京の平井伸治鳥取県知事に近いものがあります。詳しくは、知事の著書『小さくても勝てる「砂丘の国」のポジティブ戦略』を読んで頂ければ良いのですが、知事の言葉を借りて言えば、「価値はたくさん持っているが、(鳥取の)人が控えめ(=優しくて上品な県民性)で、PRが不足。」まさしくその通り。これは当院にも当てはまります。

そこで役を拝命するにあたり、推進すべき目標を3点掲げました。



①患者さんから選ばれる病院へ： 地域医療の推進

もの忘れ～認知症、手足のしびれ、歩行障害、頭痛などよくある症状を一番診るのが、神経内科です。中国・四国地方の大学病院を除く全医療機関の中で、当院は神経内科専門医数ランキング2位です。都会にあれば当然「脳の病気なら鳥取医療センター」、さらにパーキンソン病や脳卒中後の高度専門リハビリもあるので「リハビリなら鳥取医療センター」と評判になっていてしかるべきでしょう。地域にアピールしていくとともに今後、臨床研究の成果を広く世界に情報発信していきます。

②IoTの推進

超高齢化時代を迎え、国は地域で支えていく方針ですが、看護、介護の不足から厳しいのが実情です。AI(人工知能)、IoT(Internet of Things)の活用はその解決法として可能性を秘めています。医療はまだその導入が最も遅れている領域ですが、患者さんの診断・治療に役立ち、病院スタッフの業務軽減に役立ちます。当院では企業と共同し、率先して開発・導入を進めると同時にPRしていくつもりです。

③チーム医療の推進

医療者にとっては、「知識knowledge」「技術skill」が重要なのは今更言うまでもありませんが、その多くの部分がAIやIoTにとって代えられるのもそう遠い将来のことではありません。しかし感性に基づく部分、人とコミュニケーションし、思いやりに基づく行動をとること、すなわち「仁」は当分として代えられることはないでしょう。まさに『医は仁術』です。この実践には、個々人の努力もさることながら多くの職種間での患者さんへの「気づき」(情報)を共有し、PDCAサイクルを回すことが大切です。コミュニケーション力を鍛え、更なる「チーム医療」の実践を目指します。

以上、井上新院長を補佐し、みなさんとともに地域に良質で安全な医療を提供していくことに尽力したいと思います。

看護部長 沖 好子

4月1日付けで米子医療センターより異動して参りました。鳥取医療センターでの勤務は4年ぶりですが、懐かしい職員の方々や患者さんとの再会をとでも楽しみにしてきました。

赴任して、変わらぬ人々との再会を喜ぶ一方で、当時にはなかった認知症治療病棟やもの忘れ外来の設置等、高齢化社会を反映し、時代のニーズに応じた医療が提供されていることや、看護職員が大幅に増員されていることなどから、医療が変化してきていることを実感しました。国立病院機構の厳しい経営状況を踏まえ、それぞれの施設が経営改善に取り組む中、当センターは、入院基本料として、回復期リハビリテーションⅡ、障害者施設等入院基本料7：1、精神科救急入院料の取得等収益の増収に向けて、職員が一丸となって努力されてきていることが伝わり、これからの看護部長としての役割を考えると、身の引き締まる思いです。

今年度看護部は、新採用者として、転入者を含め38名の看護師を採用しました。これは、1病棟から5病棟の入院基本料(障害者等入院基本料7：1)を維持するための看護体制の整備が大きく影響したも



のでした。看護職員の増員により、今まで以上に、患者さんに寄り添った、温かい看護が提供でき、患者さんやご家族の期待に応えられる看護師の育成に努力していきたいと考えています。特に、当センターは、神経筋難病、重症心身障害、精神、結核という、セーフティーネット系医療を担う病院として、より高い倫理観と専門性に基づいた看護が求められています。専門職業人としてだけでなく、人間性の豊かな看護師であって欲しいと期待しています。そして、看護師1人1人の看護実践が、鳥取医療センターとしての評価につながり、地域の方々からの信頼を得、地域と共に歩んで行ける病院であり続けられるように、職員の皆様と一緒に取り組んでいきたいと思ひます。

薬剤部長 栗田 益希

4月1日付で国立療養所大島青松園より赴任いたしました、栗田(くわだ)と申します。濁ります。前任地の大島青松園は、昨年11月に第71回国立病院総合医学会が開催された香川県高松市の高松港沖8キロに浮かぶ周囲約2キロの小さな島「大島」にある、今では唯一の孤島にあるハンセン病施設です。赴任中の4年間は通勤専用船に揺られて通勤しました。久しぶりの陸地勤務になります。

当院薬剤部は、薬剤師6名、臨床研究部員1名、薬剤助手1名で業務に取り組んでいます。薬剤師業務はチーム医療への参画等多岐に渡りますが、現在の薬剤部の主たる業務は処方調剤です。当院では服薬管理の簡便性やコンプライアンス向上の為、多数の処方方を縦断的に用法で分割する「縦割り調剤」を全処方に行っています。これは処方オーダーを調剤支援システムに取り込み解析し用法毎に薬剤の種類と用量を分割し、患者さんそれぞれの服薬や管理上の要望、調節可能な様に別分包とする等を踏まえた文字通り完全オーダーメイドです。各病棟や外来で手元に来る調剤薬は、ほぼ一用法一薬袋で整理され、多くは服用し易い分包品となっています。その



分、調剤時の手間は複雑になり、監査も処方内容に一層の注意が必要とされるこの方法ですが、服用や管理の簡便性だけではなく、徹底的に行うことで分包紙や薬袋、インクリボン等の調剤に掛かる材料を減らし、結果コストの削減に繋がっており、DPC病院等でも行われています。

またCRC・事務局として臨床研究部の人員的なご協力のもと治験業務も兼務し、契約の完遂を目標に、情報連絡や確認作業、個人情報や倫理へ配慮し、プロトコル逸脱のない確実な遂行に向け日々精進しています。私を含め本年度2名の異動があり、不慣れな面をお見せするやもしれませんが、前任者同様のご厚情と薬剤部業務へのご協力をお願い申し上げます。

○ 転入者ご挨拶 ○

①氏名 ②職場・職名 ③出身地 ④趣味・スポーツ等

①野崎 一弘
②事務部・経営企画室長
③岡山県瀬戸内市
④ゴルフ

①山本 淳詞
②事務部・専門職
③鳥取市
④城跡めぐり

①吉田 直樹
②事務部・算定病歴係長
③新潟県燕市
④野球観戦

①田中 大吾
②放射線科・副診療放射線技師長
③兵庫県西宮市
④音楽鑑賞・楽器演奏

①齋藤 豊彦
②臨床検査科・臨床検査技師長
③広島県広島市
④オンラインゲーム

①中嶋 美香
②臨床検査科・臨床検査技師
③倉吉市
④食べること

①坂根 良和
②栄養管理室・栄養管理室長
③鳥取市
④食べ歩き

①丸山 康徳
②リハビリ・理学療法士長
③広島県広島市
④カーブ馬鹿です

①西 道弘
②デイケア・作業療法主任
③広島県広島市
④スノーボードなど

①中村 径雄
②リハビリ・作業療法士
③広島県広島市
④海外旅行・温泉めぐり

①長谷 拓也
②リハビリ・言語聴覚士
③智頭町
④登山

①市河 裕智
②療育指導室・主任児童指導員
③広島県広島市
④おいしいものを食べること

①高橋 朋子
②療育指導室・主任保育士
③島根県出雲市
④おいしいパン屋さんを見つける事

①後根 可奈
②療育指導室・保育士
③山口県山口市
④アウトドア

①妹尾 里美
②看護部・副看護部長
③岡山県倉敷市
④映画鑑賞

①山本 純子
②外来・看護師長
③江府町
④孫と遊ぶ

①川谷 みのり
②2病棟・看護師長
③岩美町
④読書・ガーデニング

①下田 靖子
②5病棟・看護師
③鳥取市
④舞台鑑賞(宝塚他)

①佐々木 詩織
②9病棟・看護師
③米子市
④カフェ

①新宮 由紀恵
②3病棟・看護師
③鳥取県
④カフェ

○ 新職員ご挨拶 ○

①氏名 ②職場・職名 ③出身地 ④趣味・スポーツ等

①西村 奈菜 ②4病棟・看護師 ③鳥取市 ④音楽をきく	①中田 明子 ②3病棟・看護師 ③大阪府大阪市 ④旅行	①角田 梓 ②8病棟・看護師 ③鳥取市 ④音楽を聴くこと
①田中 理沙 ②3病棟・看護師 ③鳥取市 ④ジョギング	①山田 真由 ②3病棟・看護師 ③倉吉市 ④バレーボール	①宮下 由香 ②1病棟・看護師 ③兵庫県美方郡 ④食べること
①清水 彩香 ②4病棟・看護師 ③米子市 ④ドライブ	①井藤 沙絵 ②2病棟・看護師 ③岩美郡 ④音楽鑑賞	①福本 芽衣 ②1病棟・看護師 ③米子市 ④お菓子作り・バドミントン
①西川 涼子 ②5病棟・看護師 ③鳥取市 ④美味しいものを食べること	①西平 朋矢 ②4病棟・看護師 ③鳥取市 ④サッカー	①二口 慶子 ②1病棟・看護師 ③岡山県 ④旅行
①吉岡 龍成 ②2病棟・看護師 ③気高町 ④卓球	①谷口 棕香 ②4病棟・看護師 ③鳥取市 ④バスケット	①嘉本 朱花 ②1病棟・看護師 ③米子市 ④料理
①森種 未希 ②2病棟・看護師 ③伯耆町 ④映画鑑賞	①権田 芽生 ②1病棟・看護師 ③米子市 ④音楽を聴く	①毛利 真菜 ②6病棟・看護師 ③米子市 ④バレーボール・ハンドボール
①大家 美南海 ②7病棟・看護師 ③鳥取市 ④テニス・野球観戦	①木島 桂子 ②9病棟・看護師 ③鳥取市 ④スポーツ	①福谷 奈夏 ②5病棟・看護師 ③鳥取市 ④旅行・バスケット
①山尾 由花 ②5病棟・看護師 ③鳥取市 ④音楽をきくこと	①丸尾 高弘 ②8病棟・看護師 ③岡山県津山市 ④野球・音楽	①西村 彩花 ②3病棟・看護師 ③大山町 ④カメラ
①平井 美咲 ②2病棟・看護師 ③鳥取市 ④音楽鑑賞	①裕 佳蓮 ②9病棟・看護師 ③鳥取市 ④旅行	①濱口 栄一 ②3病棟・看護師 ③鳥取市 ④サッカー
①吉岡 謙吾 ②5病棟・看護師 ③鳥取市 ④野球	①中島 愛乃 ②6病棟・看護師 ③米子市 ④テニス	①若山 未来 ②1病棟・看護師 ③鳥取市 ④読書
①山下 梨恵 ②5病棟・看護師 ③鳥取市 ④バレー	①宮脇 涼 ②2病棟・看護師 ③鳥取市 ④バレーボール	①藤井 早也佳 ②3病棟・看護師 ③岩美町 ④旅行に行くこと
①坂本 文乃 ②7病棟・看護師 ③鳥取市 ④犬の散歩	①前田 留美 ②4病棟・看護師 ③鳥取市 ④ドライブ	①猪木 摩耶子 ②薬剤部・薬剤師 ③岡山県倉敷市 ④旅行
①吉川 由依 ②リハビリ・理学療法士 ③倉吉市 ④ピアノ	①入江 啓祐 ②リハビリ・作業療法士 ③八頭町 ④散歩	①松本 順子 ②地域連携室・医療社会事業専門員 ③伯耆町 ④ボート

● 骨密度測定 共同利用開始 ●

診療放射線技師長 富田 正二

昨年度導入した骨密度測定装置を、平成30年2月から地域の開業医の先生方にもご利用いただけるようになりました。従来の画像センターのご利用と同様に地域連携室へお問い合わせください。

骨密度とは骨の強さを判定するための指標で骨に存在するミネラル(カルシウム・マグネシウム等)がどの程度あるかを測定します。

★骨密度

(BMD:骨量を面積(単位g/cm²)で割った値)

★若年成人比較%

(YAM:若年齢の平均BMD値(基準値)を100%として、被験者BMD値と比べた%)

★同年齢比較%

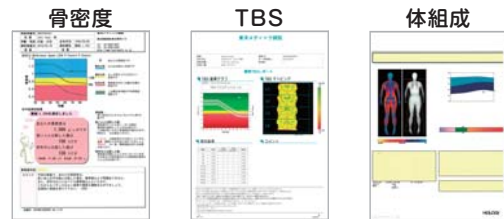
(同年齢の平均BMD値を100%として、被験者BMD値と比べた%)

結果は紙及び電子データ(CD)でお返しいたします。加えてTBS(Trabecular Bone Score):海綿骨構造指標も測定いたします。

また、この装置は腰椎・大腿骨・前腕など全身の骨密度を測定できるWhole Bodyタイプで骨密度だけでなく脂肪や筋肉といった軟部組織の測定も可能です。

サルコペニアやフレイルなど加齢による運動障害に対して骨や筋肉、脂肪の状態を評価するための経過観察にもご活用いただけます。

解析結果は数値やカラーマップでご提供させていただきます。



● 第11回鳥取医療センター看護・臨床研究発表会 ●

リハビリテーション科 福田 哲也

平成30年1月25日、26日に、第11回鳥取医療センター院内看護・臨床研究会が開催されました。看護部から11演題、リハビリテーション科から4演題、医療連携室から3演題、栄養管理室、臨床研究部からそれぞれ1演題ずつが発表され、活発な質疑応答が行われました。特別講演では、姫路中央病院 東 靖人先生に「姫路中央病院でのもの忘れ外来」をテーマにご講演頂きました。

私は、「姿勢異常を呈するパーキンソン患者に対する治療用椅子の開発」の演題で発表しました。

当院のリハビリテーション科は回復期チーム、神経難病チーム、重心チームに分かれており、私は神経難病チームに現在所属しています。また、一般病棟ではパーキンソン病の短期リハビリを行っておりパーキンソン病の患者さんが多くおられます。

パーキンソン病患者さんの中で姿勢異常により日常生活動作に影響がある患者さんは多くみられます。しかし、パーキンソン病治療ガイドライン2011においても、姿勢異常の治療に関してのエビデンスは低いです。そこで今回、研究の目的として神経難病チームの作業療法スタッフ協力のもと環境調整から姿勢異常に対する治療介入を行い、効果判定から考察までを本会にて発表しました。

具体的な内容としては姿勢異常の強いパーキンソン病患者さんに対してシャワーチェアの前足の脚長差を変えチルト機能とした椅子(以下パーキンソンチェア)を作成しました。その椅子を使用

してもらうことにより円背の患者さんが身体を起こした体勢を保ちやすくなり、机上活動が行いやすくなると考えました。

実際に食事などの日常生活動作で使用して頂くと、今まで全介助にて食事を食べられていた患者さんが自力で食べられるようになり、書字や手芸などの机上活動が行いやすくなるといった効果がみられました。

今年度パーキンソンチェアに対する研究を行っていきななかで患者さんから「よかった」などのポジティブな意見をもらい有用なものであったと感じることが出来ました。一方、「倒れそうで怖い」などのネガティブな意見も聞かれ改善の余地も大いにあります。現段階のものは既製の椅子に工夫を加えたものであり不備な点がみられます。現在は福祉用具会社の協力のもと、より安心して使用できる椅子の作成を進めています。

今後も引き続き研究を行っていき、更なる改善を図っていくことでより安全で実用的な椅子の作成を志していきます。



● シリーズロボット病棟 No.5 ●

9病棟看護師長 山口 隆夫

シリーズロボット病棟の第5回となりました。まずは9病棟について少し紹介させていただきます。9病棟は回復期リハビリテーション病棟です。急性期病院で脳卒中や大腿骨の骨折などの治療を受けた患者さんへリハビリテーションを行い、機能回復し、その後自宅や施設へ退院できるよう支援する病棟です。一般病棟とは異なり365日リハビリテーションが行われ、訓練で行っている動作は、病棟生活のなかで実際にできる動作として行い、日常生活での動作の拡大を図っていきます。また、病棟で行う行事のなかで、季節を感じてもらったり、パルコと一緒に体操を行ったりしています。医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・栄養士・薬剤師・社会福祉士がチーム医療で在宅復帰、社会復帰を目指しひとりひとりの患者さんに関わっている病棟です。

さて、当院と株式会社LASSIC(ラシック)共同で進めているロボット病棟プロジェクトもPoC1(Proof Of Concept:新しい概念や理論、原理などが実現可能であることを示すための簡易な試行)が終了し2月からはPoC2が始まりました。

ロボット病棟プロジェクトが実際に開始される前は、ロボットと聞いてTVで見たことのある腰から足にかけてフレームのようなものをつけ、患者さんの移動介助を行い看護師の負担を軽減するものだと思っていました。しかし、私の想像していたものとは違い、IT(Information Technology:情報)、IoT(Internet of Things:モノ同士をインターネットでつなげる)技術、そしてAI(Artificial Intelligence:人工知能)技術を活用したものを総じてロボットということがわかりました。それらを用いて転倒リスクの判定や転倒検知、転倒時の早期対応や、位置情報の表示・通知による徘徊・離棟防止、



患者さんとロボットとの会話の中で表情や音声から感情の解析を行っていくというものでした。将来的には、入院時から退院後までロボットの活用を行い、医療者だけでなく患者さん・家族の安心や負担軽減につながっていくようになる研究です。

PoC1では看護師や患者さんの協力のもと位置情報の表示・通知やPepperによる見守り支援を行いました。入院している患者さんの中には、Pepperに興味を示し挨拶をしたり、実際にパネルに触れてみて説明を聞いたり、リハビリテーションスタッフと共にゲームを楽しむ場面もありました。医療スタッフや家族以外との関わりは、長期に入院される患者さんにとってプラスの刺激になったのではないかと思います。一方、看護師からは認知症などがあり、病棟から離れる患者さんを事前に把握するためにはPepperをどこに配置した方が効果的か、特定の人だけを認識することはできないのかといった意見も出ました。

PoC2ではカメラ機能のある小さなロボット、Sotaも追加されました。スタッフステーション内にあるモニターだけではなく、スマートフォンにも同様の画像が映し出されるようになりました。このカメラとモニターがあることによって、病棟から離れてはならない患者さんに事前に気づき、病棟から出てしまう前に声をかけることができたときには、離棟防止に役立つことを実感しました。カメラについては他のセンサーと併用することで、離れた位置から状態を知ることができ、患者さんの安全と看護師の業務負担軽減につながることが期待できました。

今後「患者さんケアの向上」「医療業務の効率化」等を目指し、IT技術やロボットの活用が進んでいくと思います。しかし、それらはあくまで一つの手段や方法であることを理解した上でどのように活用していけばいいのか、人と人とのコミュニケーションは継続して行い、私たちがよりよい医療を患者さんに提供できるよう共同研究を進めていきたいと思いをします。

○ 職場紹介～栄養管理室～ ○

主任栄養士 香 田 早 苗

栄養管理室は、現在、非常勤(期間業務職員)を含めて管理栄養士4名、調理師11名の構成員です。ほかに一部の盛り付けから配膳下膳や食器洗浄、清掃などは、外部の業者に委託しています。たくさんの職員が関わりをもって成り立っています。栄養管理室の理念は、「患者さんが、食を通じて心豊かな生活が送れますよう支援します。」です。そのため安全で美味しい食事が提供できるよう努力しています。安全な食事と言えば、まず衛生管理の徹底、食材の選定、また一口に「美味しい食事」と言っても嗜好に個人差があり、また、病状により食事内容に制限があったり、その日の体調のよし悪しで、同じものを提供しても美味しく全部食べられる日があれば、そうでない日もあると思います。集団給食、病院食なので、仕方ないと思われる方もおられます。しかし、食事が楽しみとして満足できる時間が、少しでも増えてくれることを願っています。献立は、患者さんの疾患に応じて、様々な食種別にメニューを管理栄養士が、計算をしながら考えています。栄養価が合っているか、行事食や旬の材料、季節に見合った質の良い食材料を取入れるための購入努力、様々な種類の食事を各メニューごとに予定食数を把握して必要分の食材料を発注しています。大昔は、献立表はすべて手書き、栄養価計算も発注もそろばん＆電卓で手計算していた時代が、あったらしいですが…。決められた食種のほかに、可能な限り個人対応で献立作成しています。調理師も管理栄養士も患者さんに美味しい食事を届けたい思いは、同じですが、折り合いをつけていくことが、非常に難しいところです。作業工程に無理がないか、等調理担当の調理師と献立作成担当の管理栄養士とのコミュニケーションがポイントです。塩分や糖分の摂取に制限のある患者さんは、とくに味付けの工夫でカバーしています。また、摂食嚥下機能の低下した患者さんの治療食のレシピも日々検討しています。他部門のスタッフからの意見も参考に専門分野の委員会で情報共有し、患者さんの状態を観察しながら、安心して美味しく召し上がっていただく食事を目指していま



す。ほか、楽しみのひとつとして選択食を一部の病棟で実施しています。1日3食の食事のほかに各病棟のイベント行事に参加して、行事食にも力を入れています。その際の皆さんの笑顔が、私たちの何よりの励みです。

上記のようなフードサービス(給食管理)のほかに臨床栄養サービスも栄養管理室の大事な業務です。栄養相談、栄養指導により、食事も治療の一環であること、治療食の意義と内容を理解していただき、食事のとり方等を助言しています。患者さんと直接お話しが出来て寄り添える時間が増やせることを優先に活動しています。

給食管理、臨床栄養管理と多岐に渡る業務がありますが、常に患者さんの目線に立って仕事をしていくことを心がけています。食事から健康と幸せを…。



Comedical topics

【臨床工学】(藤原義仁)

学校や施設などでよく見かけるAED。当院には各建物におよそ1台ずつの計6台設置しており、設置場所に近い病棟の看護師で毎日点検、臨床工学技士で毎月1回点検を実施しています。



このAEDって何か御存知ですか。AEDとは自動体外式除細動器のことを言います。

医療資格がなくても利用でき、心室細動などの不整脈を正常な心臓の動きに戻すために電気ショックを行う医療機器です。

当院には日本光電のAEDがありますが、街中には各種様々なメーカーのAEDが設置されています。

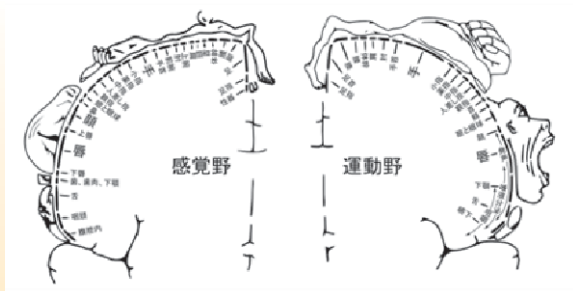
自分の職場や学校、通勤・通学途中にどんなAEDがどこにあるのかを把握しておくのと速やかな人命救助に役立つと思います。AEDをどんな時に、どのように使用するのかお知りになりたい方は気軽に臨床工学技士までお尋ねください。

【作業療法】(村山大佑)

『ホムンクルス』ってなーに？

私たちの脳は様々なことを外界から受け取り、考えたり感じたりして、行動として動作をします。その脳の機能を模式的に表したのがあります。それが『ホムンクルス』です。

この図は脳の表面(大脳皮質)がどのような働きを持っているかということの割合を模式的に表したもので医学の世界ではよく知られています。左側の図は感覚を受け取る割合、右側の図は運動に関する割合です。これを見ても感覚にしても運動にしても体の他の部分よりも顔や手についての範囲が大きいようです。手先で細かいことをしたり、いろんな表情をしたりするためにはより多くの脳の機能を使うということなんですね。



出典:ウィキメディア・コモンズ

※この図は右脳と左脳の役割を表しているのではありませんのでご理解ください。

【理学療法】(今井靖二)

知っていますか?健康寿命

健康寿命とは、健康で日常生活を支障なく送ることができる期間のことを指します。

厚生労働省から「2016年簡易生命表」が公表され、平均寿命が男性80.98歳、女性87.14歳と、いずれも過去最高を更新しています。最近の健康寿命としては、2016年時点で男性が72.14歳、女性が74.79歳とされ、その差は男性9年、女性12年です。つまり、元気に過ごすことができない期間が10年間あるということです。

その主な原因は、死亡原因の上位を占める悪性新生物(がん)、心疾患、肺炎などの生活習慣病と呼ばれる病気に関係しています。生活習慣病は健康的な生活習慣を確立することで、病気の発症そのものを予防できると言われていています。運動、食生活、喫煙、飲酒などの生活習慣の見直し・改善することが重要です。効果的な運動として、ウォーキングなどの有酸素運動や立って歩くために必要な筋力強化運動があります。

無理のない範囲で行ってみてください。



【医療社会事業専門員(医療ソーシャルワーカー)】(尾崎真紀)

『自立支援医療制度』をご存知でしょうか?

病気や障がいを軽くするための外来治療には医療費がかかります。『自立支援医療制度』は医療費の自己負担額を軽減し、安心して外来治療を続けてもらうための制度です。診察代だけでなく、お薬や訪問看護、デイケア等の医療費もこの制度の対象となります。

医療費の自己負担は原則1割ですが、本人の収入額や世帯の所得によって1か月あたりの負担上限額が設けられています。手続きの窓口は市区町村役場です。

制度の詳細をお知りになりたい方、利用をご希望の方は、主治医や医療ソーシャルワーカーにお尋ねください。



外来診療科担当医表

独立行政法人国立病院機構鳥取医療センター

平成30年4月1日現在

		月	火	水	木	金	
内科	循環器	松本		松本	松本	松本	
	呼吸器	山本	山本	山本			
神経内科	1	高橋	齋藤 (てんかん)	井上	金藤	土居充	
	2	下田	房安	金藤 (嚔下外来)	土居充	房安	
	3	小西	田中	齋藤	小西 (井上)	田中	
	4			下田	三島香		
	5			北川			
	専門外来 (予約制)	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害 てんかん	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害 嚔下障害 てんかん	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害	
もの忘れ外来		高橋 (午後)	房安・田中 (午前)			土居・小西 (午前)	
小児科		中野	小松	赤星	中野	赤星	
	専門外来 (予約制)		発達外来 赤星	発達外来 中野			
精神科	初診	診察室6	長田	休診	助川	長田	休診
		完全予約制ですので事前の予約が必要です。					
	再診	診察室1		助川			坂本
		診察室2		坂本	土井清	助川	土井清
		診察室3		岩田	長田	幡	
		診察室5		池成		高田	林
診察室8					柏木		
専門外来 (予約制)				睡眠外来 坂本・高田			
外科		古澤	古澤	古澤	古澤	古澤	
整形外科 (隔週:8:30~13:00)			市立病院 医師				
リハビリ入院相談 (13:00~15:00)	地域医療連携室	齋藤	土居充	土居充	齋藤	齋藤	

『鳥取県難病・相談支援センター鳥取』

受付時間 平日 9:00~14:00迄
 電話・ファックス兼用 0857-59-0510
 メールアドレス soudan-sien@tottori-iryu.hosp.go.jp
 相談員 太田看護師

- ◆所在地 〒689-0203 鳥取県鳥取市三津876番地
- ◆電話 0857-59-1111
- ◆診療受付時間 午前8時30分~午前11時30分
- ◆専門外来診療時間 午後1時30分~午後3時00分(睡眠外来の受付時間は午前中です)
- ◆休診日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始、ただし、急患の方はこの限りではありません。
- ◆ホームページ <http://tottori-iryu.jp/>
- ◆地域医療連携室 TEL 0857-59-1111 (内線275) FAX 0857-59-0713